

④ 肢体不自由児・者

自分の備え

日ごろの備え

- 居住スペースは、避難のしやすい1階を選びましょう。
- 実際に車いすや歩行器具を使い、避難経路や所要時間を確認しておきましょう。
- 杖などの補助用具は暗闇でも分かる場所に置きましょう。
- 介助している人の不在に備え、近所の人に協力や介助を依頼しておきましょう。
- 避難時に本人の移送や医療機器の運搬が必要な方は、医療機関や家族と話し合っておきましょう。
- 非常持出品の中に介助用品や医療的ケアに必要なものを入れておきましょう。

車いす使用者

- タイヤの空気圧は定期的に点検しておきましょう。
- 車いすが使用できないときのために、それに代わる杖、幅広いひも等を用意しておきましょう。

電動車いす使用者

- 電動車いすのバッテリーは、使用后必ず充電し、常温で保管しましょう。
- タイヤの空気圧は定期的に点検し、延長コードを電動車いすのポケットに用意しておきましょう。

安全な避難

- 車いすの方は、事前に確認したルートで避難の誘導をお願いしましょう。
- 車いすに乗っているときに大きな揺れを感じたら、家具等からなるべく離れて、車いすのブレーキをかけ、座布団等で頭部を守りましょう。

避難を支援する人

避難行動

- 支援する人は、家具の転倒や落下に気をつけながら、本人を出入りに近い安全な場所へ移動させましょう。
- 移動することが危険な状況では、消防団や救急車等の協力を求めましょう。
- 歩行の手助けには、手をつなぐ、腰に手を回す、ベルトをつかむなどの方法があります。どのような手助けが良いかは、本人や家族に尋ねましょう。
- 車いすやストレッチャーで移動させる場合は、周りの人に声をかけ手伝ってもらいましょう。

支援する際の留意点

- ・ 車いすを動かすときには、必ず「動かします」などと声をかけましょう。
- ・ 車いすを押すときには、上りは前向きに、下りは後ろ向きにするのが安全です。



避難所での対応

- 車いすが通れるよう、可能な限り幅 80cm、回転する場所では直径 150cm の通路を確保しましょう。
- 障がい者用トイレがなく支障がある場合は、避難所の職員に連絡しましょう。
- 家族の話も聞きながら、本人が必要とする支援を行いましょう。